

Capo. 0 1-2nd Am

麦わら帽子

Am G Em G Am Am G Em G Am

Am G F C
乾いた道の上 黒く短く影Am G Em Am
見下ろす足元にてるてる坊主Am G F C
目の上に見えてる 麦わら帽子にAm G Em Am
時折ふく風と夏の香りがAm
心配事 一つもないG Em G Am
太陽に 包まれてから★ Am
忘れていた あの頃のG Em G Am
床がぬい時間 思い出す **

畑に向こうの 一つ南の道

帽子の底を下げ あごを上げて

黒目と下にして 遠くを見る

元気に綱を揺る 男の子がいる

悩み事 ほとしもなく

足取っし 軽く見える

★ 忘れていた あの頃の

自分の姿を映してる **

A E D A A E D A
あごいもなくした 麦わら帽子D A F#m E
ふく風に 持ってゆかれたい様D A E A
てっパン抑えた手に 感じる風

かすかな記憶の 遠くの町 帽子の影の上後ろからと

近寄る日傘の影が覆ってる 安心な香りに包まれている

(★～★★) (*～**)